人がつながり 創りだす 新しい阿蘇
～ONLY ONEの世界へ～
阿蘇市

阿蘇

ASO

熊本県　阿蘇市
市勢要覧２０１９

■市章

阿蘇のローマ字の「A」と「S」の文字をモチーフに、阿蘇市の将来像である「緑いきづく火の神の里」のイメージを表し、阿蘇市の魅力と活気あふれる繁栄と発展を表現したデザインです。

■市の花「リンドウ」

野焼き後の真っ黒な草原に、命の息吹を感じさせ、青紫色の可憐な花を咲かせるハルリンドウは、阿蘇の春を代表する花です。また、秋には秋咲きのリンドウが草原を彩ります。

■市の木「ミヤマキリシマ」

ミヤマキリシマは、仙酔峡、高岳、阿蘇山上一帯に大群落をなして自生しており、５月に紅紫色の花を咲かせます。毎年、多くの市民や観光客に喜ばれています。

■市の鳥「キジ」

キジは、色鮮やかで優美な姿で知られ、阿蘇では草原や林の中で、年中姿を見ることができます。また、童話等を通じても親しみがあり、市民にも広く知られています。

２０１９

阿蘇市市勢要覧

発行年月／令和元年５月

発行／阿蘇市　総務部　財政課

〒869-2695

熊本県阿蘇市一の宮町宮地504番地1

TEL：0967－22－3204

FAX：0967－22－4577

写真協力：熊本県

目次（CONTENTS）

発行にあたって・・・・・・・・・・・・・・　３
市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
自然・観光・・・・・・・・・・・・・・・・　７
文化・歴史・・・・・・・・・・・・・・・・　９
祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
学校教育・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
生涯教育・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
保健・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
防災・防犯・・・・・・・・・・・・・・・・２１
医療機関・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
農業・林業・畜産業・・・・・・・・・・・・２３
商工業・観光業・・・・・・・・・・・・・・２５
阿蘇市総合計画・・・・・・・・・・・・・・２７
行政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

阿蘇市イメージキャラクター

あか牛くん

五岳くん

火の子ちゃん

■市民憲章

第１章　自然と郷土を愛し、美しいまちをつくります。

第２章　互いに協力し、元気ではたらき活力に満ちたまちをつくります。

第３章　きまりを守り、誠をつくし、豊かで思いやりのあるまちをつくります。

第４章　文化を継承し、教養を高め、情操を育てて格調高いまちをつくります。

第５章　伝統を重んじ、創意工夫をし、希望にあふれるまちをつくります。

大観峰から眺める阿蘇五岳

発行にあたって

阿蘇市は、先人たちにより守り育まれてきた雄大な自然や、阿蘇神社をはじめとする歴史遺産や伝統文化など、人々の営みの中で受け継がれてきた多様な地域資源に恵まれております。

かけがえのない財産を後世に伝えていく取り組みの中で、平成25年に世界農業遺産、平成26年世界ジオパークに認定と世界的な評価を相次いで受けることができました。

一方で、度重なる自然災害からの復旧・復興、少子高齢化や若年層の都市部への流出による地域の担い手不足への対応など、本市を取り巻く状況は、多くの課題が山積し、かつ多様化・複雑化しています。

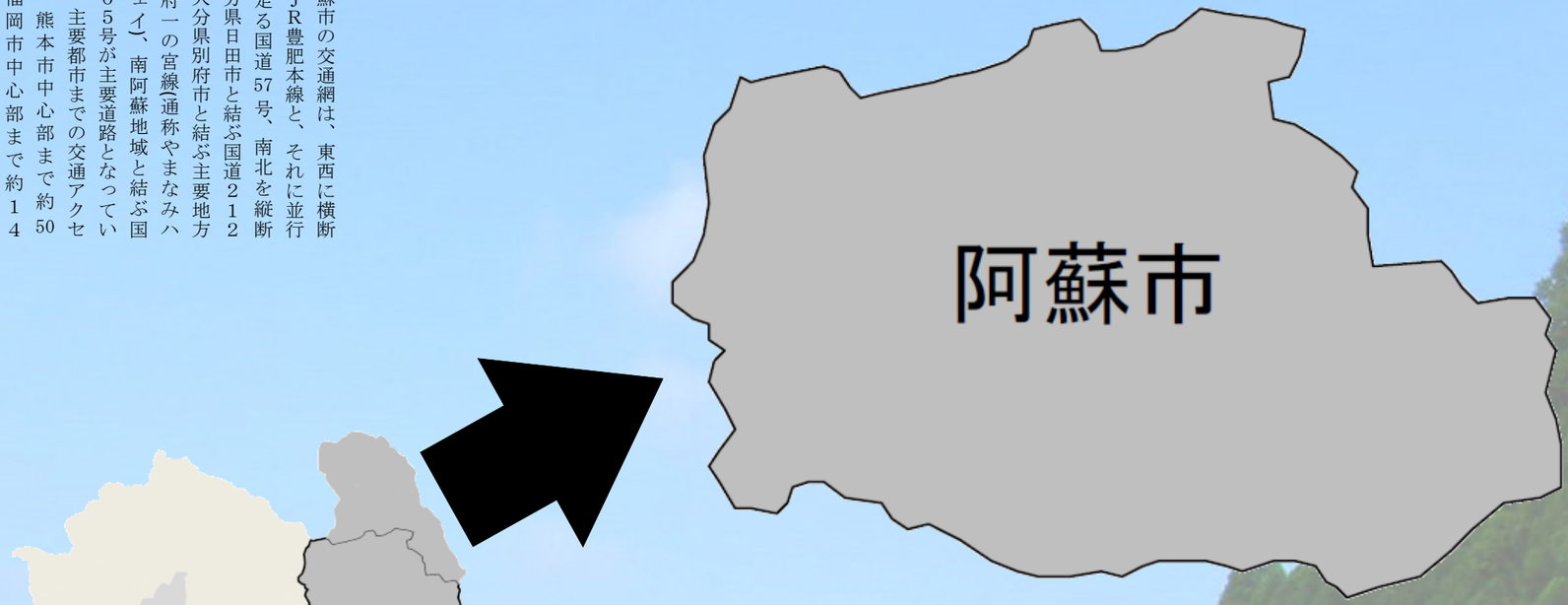
こうした厳しい状況のなか、平成29年10月に第2次阿蘇市総合計画を策定しました。将来都市像として掲げた「人がつながり創りだす新しい阿蘇～ONLY　ONEの世界へ～」は、人と人のつながりから生じるパワーを基にチャレンジを繰り返し、新しい阿蘇市を創造・発信しようという思いが込められています。

この将来都市像の実現に向けて、市民一人ひとりが輝き、地域が輝き、暮らして良い、訪れて良い、魅力あふれる阿蘇市を築いてまいります。

皆様方におかれましては、今後とも本市の取り組みにご支援ご協力いただければ幸いに存じます。

阿蘇市長　佐藤　義興

阿蘇市の概要



阿蘇市は、熊本県の北東部、阿蘇地域のほぼ中央に位置しており、熊本県と大分県の県境を有し、大分の2市を含めて8つの市町村と隣接しています。市域は東西約30㎞、南北約17㎞で、面積は376.30平方㎞となります。

地形は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷とそれを取り巻く阿蘇外輪地域で形成されています。市の大部分が阿蘇くじゅう国立公園内にあり、野焼きに代表される人と自然の共生によって守られてきた広大な草原や、オオルリシジミをはじめとする阿蘇特有の希少動植物など豊富な自然と様々な地域資源に恵まれています。

気候は、年平均気温約13℃、年間降水量約3000㎜で、四季を通じて比較的冷涼で多雨な地域です。

産業は、平坦地での稲作や園芸作物、山間地での高冷地野菜づくりを主とした農業と雄大な自然景観や阿蘇神社をはじめとする歴史遺産を活かした観光が主となります。

交通

阿蘇市の交通網は、東西に横断するJR豊肥本線と、それに並行して走る国道57号、南北を縦断し大分県日田市と結ぶ国道212号、大分県別府市と結ぶ主要地方道別府一の宮線(通称やまなみハイウェイ)、南阿蘇地域と結ぶ国道265号が主要道路となっています。主要都市までの交通アクセスは、熊本市中心部まで約50㎞、福岡市中心部まで約145㎞、大分市中心部まで約75㎞、阿蘇くまもと空港は約35㎞となります。

JR豊肥本線は、熊本地震で肥後大津~阿蘇間で不通となり、JRによる代替バスが運行されています。

豊肥本線に沿う形で走る国道57号は、震災により被害の出た現道復旧と北側ルートの開設、滝室坂トンネルの新設と大きな変化の中にあります。いずれのルートも大分県や熊本市内へのアクセスを良好なものとするため、本市の交通状況に大きく影響を与える事業となります。

道路及び鉄道などの交通インフラは、市民の生活に経済面を含めたさまざまな部分で影響を与えます。一日も早い復旧が望まれます。

人口

平成27年国勢調査による人口は、27,018人で、平成22年の28,444人から約1,500減少しています。昭和30年をピークに迎えて以降、転出者が転入者を上回る社会減、出生数を死亡が上回る自然減の両面から、人口減少が進んでいます。

世帯数は人口の減少に反して増加しているため、1世帯当たりの人口は減少を続けており、世帯の小規模化が進んでいます。

年齢層別構成

0~14歳の年少人口が3,239人、15~64歳の生産年齢人口が14,143人、65歳以上の老年人口が9,633人です。平成7年と27年を比較すると、高齢化率は13.3%の増加、生産年齢人口は8・5%の減少となっています。中でも高齢化率は熊本県や全国の結果より高く、少子高齢化が著しく進んでいることがわかります。

産業別構成

産業別就業者は、平成27年国勢調査では、第1次産業が2,402人、第2次産業が2,987人、第3次産業が8,080人となっています。

本市は、熊本県や全国よりも第1次産業の従事者の割合が高くなっていますが、離農者の増加は進んでいます。また、人口減に伴い各産業の就業者数は、減少を続けています。

阿蘇市の歴史

平成17年	一の宮町、阿蘇町、波野村が合併して「阿蘇市」誕生
	ASO田園空間博物館総合案内所が落成
平成18年	阿蘇インターネット放送局開局
	波野中学校新校舎が落成
平成19年	汚泥処理再生センター(赤水)完成
	阿蘇神社が国の重要文化財に指定
	ASO環境共生基金設立
平成20年	東部森林基幹林道開通
	第31回全国育樹祭が阿蘇市「阿蘇みんなの森」で開催
	阿蘇市内を横断する幹線道路整備に着手
平成21年	内牧支所が新築・移転
	道の駅「阿蘇」開駅
	阿蘇地域が日本ジオパークに認定
平成22年	内牧ファミリーパーク「あそ☆ビバ」オープン
	阿蘇駅前ロータリー完成
平成23年	阿蘇西ふれあい市場「あかみず」オープン
	阿蘇インターネット光運用開始
平成24年	第1回大阿蘇火の山まつり開催
	第1回大阿蘇元気ウオーク開催
	九州北部豪雨
	阿蘇中学校開校
平成25年	阿蘇地域が世界農業遺産に認定
	阿蘇小学校開校
	火の国阿蘇の恵みのブランド「然」発信開始
平成26年	阿蘇医療センター開院
	阿蘇地域が世界ジオパーク認定
平成27年	阿蘇市誕生10周年記念式典
	阿蘇草原保全センター開館
	阿蘇中岳噴火(噴火警戒レベル3)
平成28年	一の宮小学校開校
	熊本地震
	阿蘇中岳噴火(噴火警戒レベル3)
平成29年	国道57号北側ルート二重峠トンネル着工
	ASO田園空間博物館
	ディスカバー農山漁村の宝
	グランプリ獲得
平成30年	国道57号滝室坂トンネル着工

平成25年に発信を開始した市民ブランド「然」

上空から見た阿蘇中岳火口

阿蘇ユネスコジオパーク

●草千里ジオサイト　直径約１㎞もある火口跡で、今は美しい草原となっています。

草千里ヶ浜から火口を望む

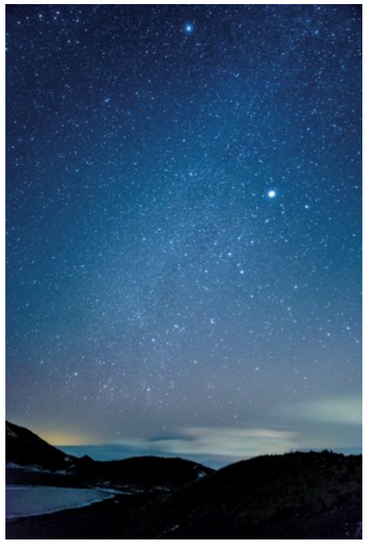
草千里ヶ浜で乗馬を楽しむ観光客

大観峰から望む「阿蘇の五岳」

阿蘇ユネスコジオパーク

●大観峰カルデラジオサイト

明治の文豪、徳富蘇峰が、その雄大な景色を見て名付けた展望所『大観峰』からは、見事なカルデラの形、お釈迦様が寝そべったよう（「涅槃像」（ねはんぞう））に見える阿蘇五岳や九重連山などを見ることができます。年に数回、阿蘇谷が湖になったかのような幻想的な雲海を見ることもできます。



草千里を照らす星空

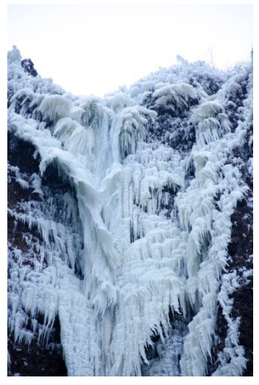
阿蘇市は、豊かな「自然」を
活用した観光が自慢です。

阿蘇ユネスコジオパーク

●米塚ジオサイト（国指定名勝及び天然記念物）

阿蘇ユネスコジオパーク

●古閑の滝ジオサイト



阿蘇ユネスコジオパーク

●仙酔峡ジオサイト（５月頃のミヤマキリシマ）

阿蘇ユネスコジオパーク

●荻岳ジオサイト

阿蘇市は、世界最大級のカルデラや、阿蘇中岳火口をはじめとする魅力あふれる自然と、阿蘇神社や神楽などの伝統・文化施設、多数の宿泊施設が立地した温泉地など、多くの観光スポットを有するまちとして繁栄してきました。

これらのスポットの中には、ユネスコの正式事業となった阿蘇ユネスコジオパークのジオサイトがあり、阿蘇火山の大地と人間生活に触れ、生きた阿蘇の魅力に迫る感動の体験ができる場所があります。

手野の大杉（国造神社内）

野焼き風景（３月）

冬の中岳と登山道中に見られる樹氷

神々の郷に残る太古からのメッセージ
受け継がれる文化の遺伝子

市民の生活のなかに生き続ける歴史と文化・伝統

豊かな自然環境に恵まれた阿蘇には、独自の風土に培われた文化があります。

近年、地域文化資源や歴史的遺産への関心と学習意欲が高まっており、地域住民と連携し文化振興を推進しています。

阿蘇神社　**（国指定重要文化財）**

阿蘇神社は、延喜式に記載される古社で、中世には肥後国一の宮として崇敬され、孝霊天皇９年に初代阿蘇国造の速瓶玉命により創建されたと伝えられます。阿蘇開拓の祖神、健磐龍命をはじめ１２神をまつっており、末社は全国に５００社を超えます。平成１９年に一の神殿・二の神殿・三の神殿・楼門・神幸門・還御門の計６棟が国の重要文化財に指定されました。平成２８年熊本地震では、楼門が倒壊するなど重要文化財に被害が出たほか、拝殿などその他の歴史的建造物にも大きな被害が発生しました。現在復旧工事が進められています。

阿蘇の農耕祭事　**（国指定重要無形民俗文化財）**

阿蘇神社や関係の神社では、稲の生育過程に沿った段階的な稲作儀礼が今に伝えられています。これらは、大自然の恵みに感謝する古の人々の素朴な折りが“かたち”としてよく現れています。

この一連の祭りは、稲作儀礼の典型であると評価され、昭和５７年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

祭りの対象となる地域は、氏子区域を越えて阿蘇谷全体の広範囲に及んでおり、その素朴な祭祀と長閑な自然との調和は、古式ゆかしい風景を醸し出しています。

火焚き神事

伝承の技は親から子へ、子から孫へ確実に受け継がれています。

中江の岩戸神楽（国選択無形民俗文化財）
横堀の岩戸神楽（市指定民俗文化財）

中江・横堀地区の神楽は、豊後神楽の系統で大分県から伝わったものとされています。中江の岩戸神楽は、明和２年（１７６５）に大野川流域の村々を経て、御嶽流の33座が継承されています。横堀の岩戸神楽は、文政６年（１８２３）には始まっており、深山流の13座が継承されています。

阿蘇の虎舞

阿蘇に伝わる虎舞は獅子頭で演じます。阿蘇神社に奉納される獅子舞に遠慮し、地域のレクリエーションとして受け継がれ、演じてきたものを虎舞と呼んでいます。厳しい生活の中、獲得した豊作への感謝と来年の豊作の願いを込め、農耕文化から誕生した芸能です。

歴史ある文化財

護王さんの杉
（市指定民俗文化財）

樹幹６．８m、樹高２２．７m、樹齢１０００年と伝えられます。

紺紙金泥般若心経後奈良院宸翰
（国指定重要文化財）

後奈良天皇が諸国の一の宮に奉納し国家の安泰と国民の幸せを祈ったものです。

中通古墳群
（県指定史跡）

前方後円墳２基と円墳８基による熊本県を代表する古墳群です。

天神橋（市指定建造物）

弘化４年（１８４７）に架けられ、石工の卯助は霊台橋も手がけています。

西巌殿寺山上本堂の仏像
（県指定彫刻）

本尊は健磐龍命の本地仏の現存最古のもので樟材の一木造。平安時代後期頃の作品です。

豊後街道二重峠石畳
（国指定史跡）

九十九折の急坂を長さ約１．６㎞、幅約３mの道に側溝・水切り等が設けてあります。

乳の木
（市指定天然記念物）

樹幹５．４m、樹高２９m、樹齢２００年以上と伝えられています。

米塚及び草千里ヶ浜
（国指定名勝及び天然記念物）

神話や詩歌の源泉となった優美な風致景観で、阿蘇山噴火史の特質を示す２つの火山として重要です。

阿蘇市の宝

阿蘇地方に人々の生活の痕跡が認められるのは、旧石器時代から（今から約２万年前）になります。連綿と続く文化の営みのもと、先人が築いてきた伝統文化・歴史遺産を後世に伝承し保護・啓発していくことは、阿蘇市のみならず世界人類の責務です。

阿蘇市内には国・県・市指定等の有形文化財40件、民俗文化財19件、記念物73件、合計１３２件があります。（平成30年５月現在）

阿蘇だからできる 阿蘇だから見れる祭り

バラ祭り（４月下旬～６月上旬）

西日本最大級のバラドーム温室に450種4,000株の世界中のバラが咲き誇ります。期間中は「春のバラ祭り」としていろいろな催しが開催されます。

横参道のサクラ（３月下旬～４月上旬）

全国的にも貴重な阿蘇神社の横参道を桜の花びらが彩ります。

ミヤマキリシマ

仙酔峡（５月上旬～中旬）、草千里ヶ浜・阿蘇山上一帯（５月下旬～６月上旬）

阿蘇中岳と高岳の北側に広がる渓谷にミヤマキリシマ(ツツジ)が咲き乱れます。その美しさは仙人も酔うほどだといわれ、仙酔峡と名付けられました。

また、草千里ヶ浜・阿蘇山上一帯でもミヤマキリシマの鮮やかな紅紫の花を咲かせます。

仙酔峡のミヤマキリシマ

草千里ヶ浜のミヤマキリシマ

長寿ヶ丘公苑（ツツジ）（４月下旬～５月上旬）

狩尾地域の方々が管理する長寿ヶ丘公苑に１万株のツツジが山肌にビッシリ。阿蘇五岳が一望できるビュースポットとしても楽しめます。トイレ・駐車場も完備。

スズラン自生地（５月頃）

日本最南端のスズラン自生地として知られる「波野のスズラン」。開花時期には波野高原に５万株が花咲きます。

神楽フェスティバル（１０月）

県内外から多くの神楽団体が集い、舞を披露しあう神楽の祭典。
平成２９年には初めての夜神楽を披露

自然豊かな環境や伝統をいかした祭り、長い歴史のなかで変わらずに守り伝えられた神事など、阿蘇市には独特の祭りがあります。

また、地域活性化などを目的に、市民主体の催しが各地域で行われています。

これらの祭りは、１年を通して阿蘇の魅力を堪能することができます。

先人から受け継がれた歴史ある祭り

火振り神事（３月）

農業神が姫神をめとる「御前迎え」の儀式の一環で、御神体を迎えるため、縄の先の芽束に火をつけて振り回す様子は美しく幻想的。

おんだ祭り（御田植神幸式・７月）

阿蘇大明神が阿蘇開拓と農耕の道をひろめた神徳をたたえ、年々の豊作を祈るもので、青々とした、阿蘇の田園の中をゆったりと進む宇奈利は、盛夏の阿蘇谷にいにしえの古式ゆかしい絵巻を見るような感激を与えてくれます。

自然と伝統を生かした祭り

大阿蘇復興まつり（８月）

大阿蘇市民祭りに代わり地震以降開催している祭。
夜には花火が上がります。

大阿蘇元気ウオーク（９月頃）

雄大な自然を感じながら市内の各史跡や名所をゆっくりと堪能できるウオーキングイベント。

自然との調和の中で、くらしのゆとりを広げる

古代の里キャンプ村

オートキャンプやフリーキャンプ、冷暖房や浴室を完備したコテージ、食事処、バーベキュー施設があります。

阿蘇市は、運動場や体育館、温水プールなどのスポーツ施設、物産館、宿泊・研修施設、温泉センターなど、数多くの公共施設があります。自然との調和と共存、そして心の豊かさを求められるよう、様々な施設・設備を充実させています。

特に、スポーツ合宿等の受け入れ体制の充実を図った施設や、高冷地野菜直販所などを兼ねた休憩所などは、市民のみならず市外の方からも多く利用されています。

なみの高原やすらぎ交流館

廃校になった小学校を利用した宿泊・研修施設で、農業体験やそば手打ち体験などの体験プログラムも豊富です。

草原学習館

阿蘇の草原を学び、楽しむための施設です。相談窓口やワークスペースがあり、草原に関する情報発信等を行っています。また、草原等のイベントが行われる芝生広場もあります。

ファミリーパークあそ☆ビバ

阿蘇中央公園に隣接する楽しさ満載の大型遊具コンビネーション施設です。

アゼリア２１

天然水を使った九州最大級の全天候型５０ｍ公認プール(温水)と温泉施設を併せもちます。その他、ウォータースライダーやトレーニングルーム、ミーティングルームを備えています。

地域の特色を生かした公共施設を整備しています。

道の駅　波野「神楽苑」

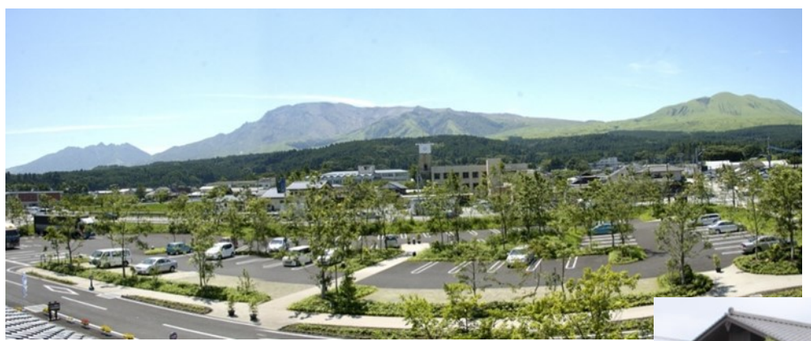
神楽公演の屋外劇場と神楽資料館、物産館、レストランがあります。特に特産物「そば」や高原野菜、山菜が人気で、連日多くの人が訪れます。

「四季彩いちのみや」

阿蘇の山並みを一望できる直売所で地域の農家が愛情たっぷりに育てた野菜などが並びます。

はな阿蘇美

バラドーム温室とイングリッシュローズガーデンを中心とした施設です。その他、物産館、レストランなどがあります。



道の駅「阿蘇」

阿蘇五岳を正面に望むという特異なロケーションをいかして、優れた景観が見られるよう整備されています。また、国道５７号、国道２１２号、阿蘇登山ルートに面し、ＪＲ阿蘇駅にも隣接しており、休憩だけでなく阿蘇の回遊、情報発信の拠点として多くの人が利用しています。

ASO田園空間博物館（道の駅「阿蘇」併設）

休憩・情報発信・地域の連携機能の３つを併せ持った総合案内所。また、館内では阿蘇の物産品の展示や販売も行っています。

のびのびと個性を育む学校教育

のびやかな教育を進め、情緒豊かな個性ある児童・生徒を育成

心豊かな阿蘇市民を育成するため、意欲的に学習に励むための必要な教育条件を整え、すべての子どもたちに確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むための学校教育をしっかりと支援しています。

高校生を講師に迎えたサマースクール

波野子ども神楽部

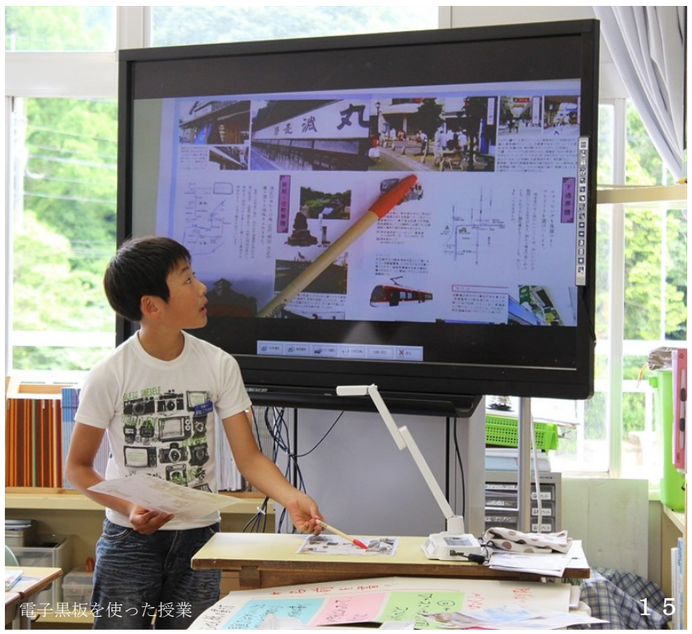
野焼き体験（２月）

コミュニティ・スクールへの取組み

コミュニティ・スクールとは、「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みのことです。

保護者や地域住民等の学校運営に対する参画推進や、連携強化を進めることで、学校と保護者、地域住民との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善やや児童生徒の健全育成に取り組みます。

稲刈り体験（１０月頃）



電子黒板を使った授業

魅力ある学習機会、世代間交流で活力に繋げる生涯学習

阿蘇図書館

地域対抗市民駅伝大会

生涯学習を通して個性あふれる、活力ある地域づくり

個性あふれる生涯学習都市づくりの実現に向け、趣味・教養を高めて明るい毎日が過ごせるよう、社会教育団体等と連携しながら公民館活動など組織づくりと活動の拡大を図っています。

また、子どもたちの放課後の空いた時間を有効活用するために、放課後子ども総合プラン推進事業や地域住民の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動事業を推進するなど、地域全体で子供を育てるシステムの構築を図っています。

社会体育は、市民スポーツ大会、地域対抗市民駅伝大会などの実施、「総合型地域スポーツクラブ」を通して、スポーツを通じた健康で活力ある地域づくりや人づくり及び生涯を通じた体力づくりの環境を提供しています。大人も子どももライフサイクルの各期に応じた魅力ある学習機会、学習内容の充実を図り、互いに高めあえる生涯学習社会づくりを推進しています。

「火の山スポーツクラブ」

（総合型地域スポーツクラブ）

総合型地域スポーツクラブとは、『いつでも・どこでも・だれでも』をテーマに、生涯にわたってスポーツを楽しみながら、学校、世代、種目等にとらわれず地域の交流を図るクラブです。運動を習慣化することで、健康水準が改善され、医療費の抑制にも繋がります。

平成30年4月現在、15種目（ゴルフ・ショートテニス・卓球・ウォーキング・日本拳法・ピラティス・バドミントン・乗馬・サッカー・テコンドー・ＨＩＰＨＯＰダンス・骨盤エクササイズ・ランニング・クラシックバレエ）の活動を実施し、子どもから高齢者の方々が楽しく活動を行っています。

農村公園あぴか

各種スポーツ・イベントなど幅広く利用できる多目的グラウンドや陸上競技場、ちびっこ広場、弓道場などがあり、地元のクラブ活動、県内外からのスポーツ大会・合宿等で利用されています。

阿蘇市立阿蘇体育館

屋内スポーツに加えコンサートや講演会などに利用できる多目的総合体育館で、武道場、トレーニング室、冷暖房設備などを備え、幅広く利用されています。

包括的な保健体制で心と体の健康づくり

シルバースポーツ大会

住民健康診断

料理教室

市民の健康づくりを積極的に支援

健康づくりに大切なのは、個々の健康管理意識です。

本市では、健康教育や健康診断、保健指導を通して市民の健康づくりを積極的に支援するとともに、市民の皆様の健康管理に対する意識の強化を図っています。

また、地域包括ケアシステムの構築を図るとともに、医療や年金に対する市民の理解を深め、適正受診・健康管理・保険税（料）の納付を進めることで、将来にわたり安定的な制度の確保に努めます。

３歳児健診

地域介護予防「いきいき教室」

日常生活に必要な体力の維持向上を目的とした地域介護予防「いきいき教室」を65歳以上の方を対象に実施しています。

この教室では運動能力の低下や閉じこもり、軽度認知症などの介護予防を目的として、体操や脳活性化トレーニングを行っています。

地域とともに支えあう安心のまちづくり

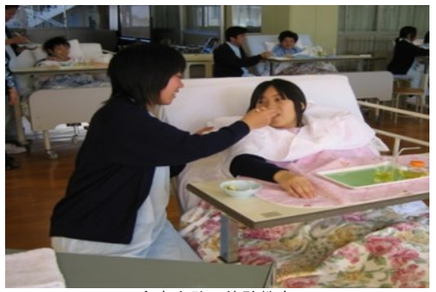
敬老会のようす

生涯を通していきいきと安心して暮らせる地域づくり

誰もが必要なサービスを自ら選択し地域で安心して生活できるよう、自助、互助、公助が一体となった地域福祉を目指しています。

そのために、地域包括支援センターや地域活動支援センターが拠点となり、高齢者や障がい者が地域で自立するために必要な支援を提供すると共に、相談支援等により常に高齢者と障がい者の声を聞き、サービスの利用促進と充実に努めています。

また、未来を担う子どもたちの安全確保と健全育成を積極的に図るとともに、保育施設の充実、母子・父子家庭への支援、延長保育、障がい児保育など子育て環境の整備を推進します。



食事介助の体験教室

高校生によるおはなしボランティア

活用しながら次世代に残す豊かな自然環境

豊かな自然環境をいつまでも美しく保つ

阿蘇のくらしは、先人たちが守り育ててきた自然環境から様々な恩恵を受け営まれています。

美しい田園、緑豊かな森林、さわやかな草原、清らかな水など、これらの自然環境を保全・活用し次世代に繋げていくことは、今の私たちにとって重要な責務です。

草原の清掃活動

この自然環境を守るために、市民一人ひとりが共通認識を持って行動し、ゴミの減量化や適正処分処理、浄化槽の設置など、環境負荷の低減に取り組んでいます。

さらに、ボランティアや各種団体と連携して地下水の保全、適正な森林管理、多様な生態系を持つ草原の維持に努めています。

また、豊富にある自然資源を活かしたエネルギーの地産地消、地域循環型システムの構築を目指しています。

草原環境学習

阿蘇を彩る植物

希少野生動植物のオオルリシジミ

阿蘇市ＡＳＯ環境共生基金

阿蘇の自然を維持・保全し後世に引き継ぐため、「阿蘇市ＡＳＯ共生環境基金」を設けています。阿蘇に想いを寄せていただける全国各地の方々のご支援を寄付（募金）として受け、阿蘇の自然環境保全、子供たちへの環境教育などの事業資金として活用しています。

安全で住みよいまちを支える生活環境

安全で便利な生活環境づくりを推進する

環境の変化に対応できる快適な生活環境づくりを推進しています。

生活基盤である道路は、計画的な整備と適正な維持管理に努めています。

市民生活の利便性を向上させるため、公共交通の拠点整備・促進・見直しを行い、地域の実情や要望を考慮した路線バスの編成や、乗合タクシーの導入を積極的に進めています。

幹線道路（下西河原塩井線）

上下水道は、公衆衛生の向上と生活環境の改善、河川などの水質保全を目的とし、安心・安全な水の供給、排出に努めています。

情報通信基盤については、地域活性化と連動した光インフラを市内全域に整備するとともに、各世帯へ設置したＩＰ告知電話「お知らせ端末」への告知放送など、急速な情報化社会の伸展に対応するための取り組みを進めています。

下水道処理施設

光ネットワーク整備により各家庭に設置されたIP告知電話

平成30年4月現在、８１７戸の市営住宅を管理しています。平成17年度に策定した阿蘇市営住宅総合基本計画に基づき、ユニバーサルデザインを取り入れた公営住宅建替事業に取り組んでいます。

熊本地震で被災し、住戸が滅失した人を入居対象とした災害公営住宅（新小里団地４号棟）

ｍｙ時刻表

市内で運行されているバスに関する、市民一人一人のための時刻表、「ｍｙ時刻表」の発行を平成30年4月から始めています。

この時刻表は、「バスは時間や料金がわかりにくく利用しにくい」という声に応えるため、よく使う区間の料金や時間を個人用に作成したものです。

乗合タクシー

阿蘇駅と路線バス

市民の暮らし、生命・財産を守る防災防犯体制の充実

安心して暮らせるまちであり続けるために

世界有数のカルデラ地帯内に位置する阿蘇市は、火山灰地質に覆われ、災害が発生しやすい地質条件にありますが、自然災害が発生しても被害を最小限に食い止められるよう、防災対策の充実に力を注いでいます。

中岳噴火を想定した山上避難訓練

消防・防災体制、防犯体制の充実と、市民一人ひとりの防災・防犯意識の徹底による予防対策の充実に努め、あらゆる災害と犯罪から市民の生命・財産を守ることを基本に、防災面では平成24年の九州北部豪雨、平成28年熊本大地震の経験を踏まえ、安全で災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

避難訓練時に行われた応急手当講習

「お知らせ端末」と同じ告知がスマホに届きます！

各世帯に設置の「お知らせ端末」で配信される市役所や学校からの各種情報がスマートフォン、タブレット、パソコンのブラウザで受信できます。

また、利用者が情報を投稿し、利用者同士で情報交換できます

各種交通安全推進団体による交通安全運動

ASO安心安全ネットワーク

地域の安心・安全コミュニティ！

市民の方々が安心して安全に生活できるようなネットワークを構築し、阿蘇郡市全体の火災情報をはじめ、阿蘇市内で発生する災害や犯罪の情報をいち早く携帯電話やパソコンにメール及び掲示板にて提供するものです。

消防団辞令交付式

安心して暮らすために欠かせない地域医療の充実

医療を通じて住みよい環境を整える

地域の中での疾病の予防や健康の維持、増進のための活動、在宅の慢性疾患の患者、地域で暮らす高齢者、障害者の介護支援や専門的な助言、妊婦の保健指導など疾患の治療だけでなく、幅広く活動を行い、地域の人々が安心して暮らせる環境を整備しています。

消防救急

AED講習

平成26年8月に開院した阿蘇医療センターは、救急告示病院・災害拠点病院等の指定を受けた地域の中核病院として、患者の視点に立った医療を日々提供しています。

「地域の医療機関や関連施設等と連携を図りながら、患者の視点に立った医療の提供を実践し、地域住民の健康維持と福祉の向上に貢献する」ことを理念として活動しています。

病院群輪番制病院運営及び休日在宅医

阿蘇地域では、平日の夜間及び休日の昼夜間の救急医療に対応する病院群輪番制病院運営事業を行っています。内科または外科のいずれかを毎日5病院（阿蘇医療センター・阿蘇温泉病院・小国公立病院・立野病院・大阿蘇病院）が担当していますので、休日でも夜間でも常に受診できます。

また、日曜、祝日には市内十数箇所の民間病院が交代で診療する休日在宅医事業も行っています。

阿蘇医療圏の中核的な医療を支える阿蘇医療センター

ヘリポート

活力あふれる農林業の振興

実りの秋の稲刈り作業

阿蘇市は、比較的平坦な地域とそれを取り巻く山間地域で形成され、それぞれ地域の特性をいかした営農形態の中で農業経営が行われています。

比較的平坦な地域では、稲作と畜産が中心であり、トマト・アスパラガスなどの施設園芸も盛んです。畑作物が中心の山間地域では、高冷地野菜・そば・花きなどが盛んで、中でもキャベツは九州有数の生産地です。

元気ある農業・農村づくりを目指して

【農業振興対策】

地域づくりを基礎とした営農体系の確立を推進し、地域が知恵と工夫を凝らした地域づくりを行い、かつ担い手の確保・育成による足腰の強い農業施策の展開を図っています。

農産物ブランド化と、地域農業の再生を図る。

【畜産の振興対策】

草原を利用した周年放牧などの推進、効率的で生産性の高い畜産経営の育成、耕種と畜産との連携の強化を含めた有機資源循環の推進と、水田と草原を利用した畜産経営の効率的な安定化に取り組んでいます。

季節ごとの阿蘇の田園風景

特産のそば

間伐の様子

人工林の杉林

高冷地野菜のキャベツ

【林業の振興対策】

林業の活性化や水源涵養及び国土保全を促すため、森林所有者等による森林施業の実施に不可欠な地域活動支援を推進しています。計画的かつ一体的な森林施業の実施活動を図っていきます。

リンドウの栽培

農林業の多面的機能を有する阿蘇

農林業を営むことで、国土の保全、九州の水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、食文化の伝承、地産地消による学校の食育活動など、多面的な機能が発揮され、私たちの生活に大切な役割を持っています。

特産の阿蘇トマト

特産の阿蘇いちご

地域の特性を生かした阿蘇ならではの農業

農産物加工品

阿蘇市では、地域を活性化していく手段として、地元の美味しく新鮮な野菜などを使い、市販品では味わえない豊かで美味しい農産物加工品を開発・商品化してきました。

特に「阿蘇たかな漬」は、メディアにも取り上げられるなど全国的に有名になりました。加工品は、農産物の推進、そして農業の振興には欠かせないものです。今後も農産物加工品の開発・推進を図っていきます。

「阿蘇たかな漬」

混ぜご飯の具としても最適で、「たかな飯」は地元料理の定番となっています。

波野高原そばで作ったそば商品

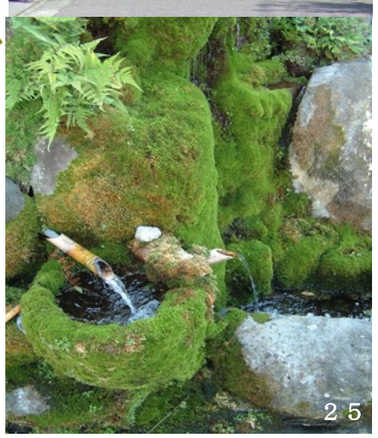
阿蘇の大豆で作った納豆

農産物加工グループなどの商品

資源を生かした地域振興 活力ある産業づくり

門前町水基巡り

阿蘇神社周辺の商店街には、「水基」と呼ばれる湧水を利用した水飲み場があります。地元では、この水基を巡りながら商店街を散策できる仕組みをつくり、魅力アップとにぎわいのある商店街づくりを進めています。



地域を活性化する商店街の取り組み

阿蘇市では、行政・各種団体・地域住民が一丸となり、地域活性化に取り組んでいます。

宮地地区は、阿蘇神社の門前町として、神社の参道から延長して商店街が形成されています。株式会社まちづくり阿蘇一の宮（TMO構想）による阿蘇神社の周辺整備や、一の宮ボランティアガイドによるサービスの実施、地元商店街有志の「仲町繁栄会」や、後継者たちによる阿蘇町門前長商店街振興協会の活動が活発です。水基巡りを核とした地域おこしで商店の結束と意欲を高めています。

その活動が実を結び、現在では1年を通して観光客が訪れるなど、阿蘇市を代表する商店街となっています。

地域活性化に向けたセミナーの様子

内牧地区は、明治30年から温泉郷として栄え、温泉街の道沿い約1㎞に商店街が形成され、地元と密着した商店街として、なくてはならない存在となっています。

内牧温泉街では、各種団体・商店主・商工会・行政等様々な人が参加する「内牧温泉街繁栄会」を組織し、まちづくりのビジョンと活性化に向けた方策を検討しています。

また、経営者の意識向上のため、内牧温泉の旅館のおかみさんによる勉強会の実施や、商店主による地域づくり活動など、活性化に向けて取り組んでいます。

内牧温泉街繁栄会の活動

地場企業の生産工場増設が続いており、雇用機会が拡大されています。

均衡ある発展を実現するために、今後も優良企業や施設の誘致に努め、若い世代のための魅力ある就業機会の創出に積極的に取り組みます。

赤水地域への企業誘致

SINCE 2016
コギダス
阿蘇サイクルツーリズム学校
Aso Cycling Tourism School

阿蘇市では、サイクルツーリズム推進のために「阿蘇サイクルツーリズム学校」通称『コギダス』を発足しました。サイクリングを通して、阿蘇を訪れる人と、阿蘇にお住いの皆様に町の魅力を発見してもらうことが目的です。

サイクルツーリズムとは、自転車を通じて交流を図る観光のことで、自転車ならではの利点を生かして、阿蘇の日常風景、「食」や「人々との触れ合い」を楽しむ新しい観光スタイルです。

コギダスでは、サイクリストを魅了する様々な魅力をアクティビティや観光スポット等の切り口からご紹介します。

コギダスHPアドレス：http://kogidasu.jp/

内牧温泉

明治３０年、地元の人が灌漑用の井戸を掘っていて、たまたま湯が噴き出しました。この小さな出来事が大きな福音をもたらし、内牧では掘湯ブームが起き、県内有数、阿蘇谷最大の温泉地に成長しました。多くの文化人も訪れ、阿蘇の大自然に心打たれ、優れた作品を数多く残しています。現在は、映画の撮影があるなど、多くの人々が愛する温泉街として今も知られています。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然 zen
Aso City

阿蘇市は観光振興のブランドとして「然（ZEN）」を発表し、自然と向きあい共作する「人」を主役に阿蘇の魅力を発信しています。一人ひとりが仕事や夢に向かってチャレンジしながら、人が輝き、地域が輝き、住んでよし、訪れてよしと実感できる魅力ある地域づくりを進めています。

【然（ZEN）】

阿蘇の雄大な自然・肥沃な地・清冽な水という環境風土を示し、そこから得られる物産を示し、それらを育む人びとの技能を示します。すべてを貫くものは、この地ならではの独自性であり、豊饒性。その価値を「しかるべき、ありのまま」を意味するこの語に託しています。

第２次阿蘇市総合計画

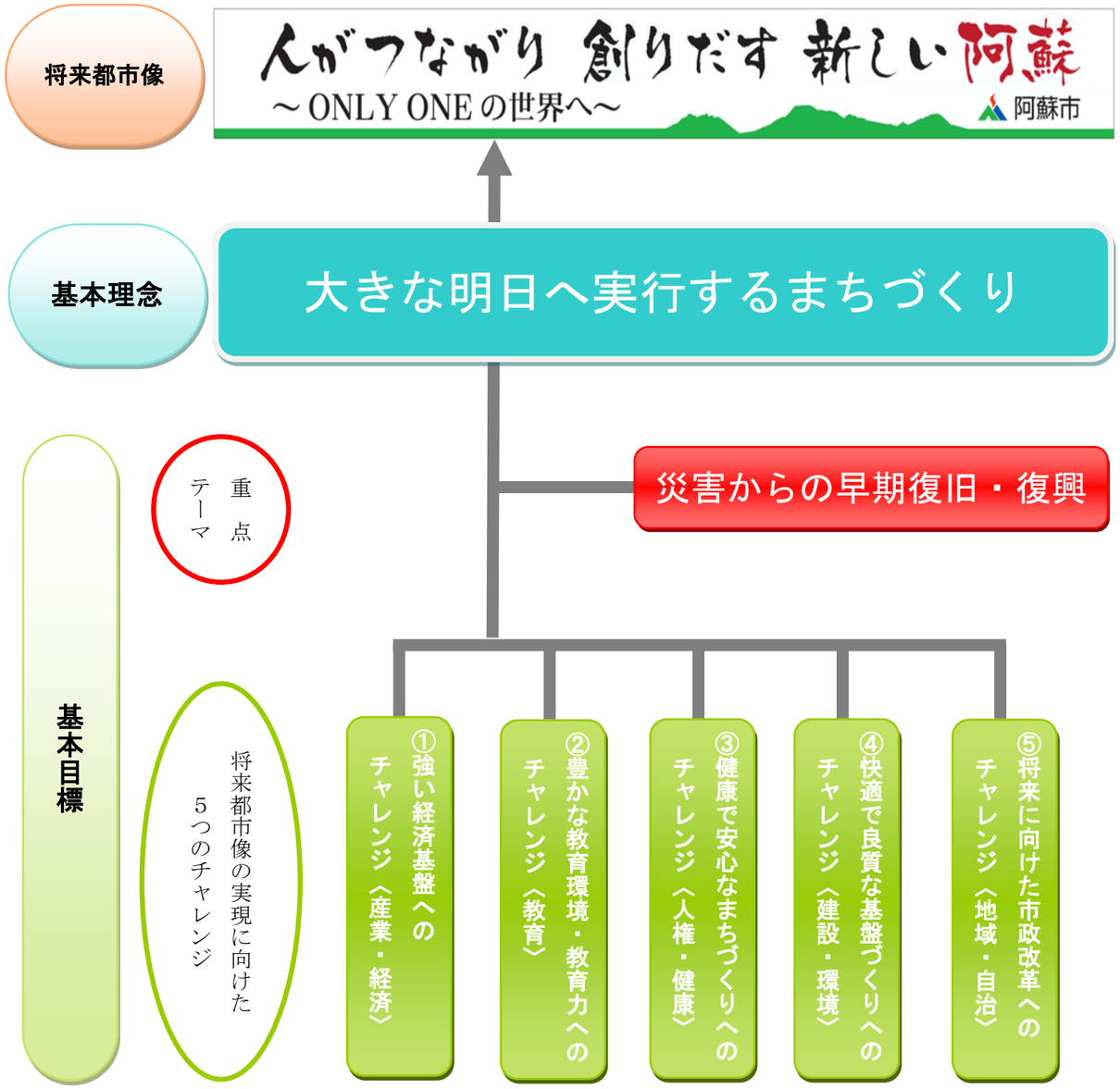
本市では、平成17年の誕生以降、新たなまちづくりの指針となる「第１次阿蘇市総合計画」を策定し、市民の皆様の知恵と工夫、参加をいただきながら教育・医療・福祉・防災・経済等、市民生活の向上・充実に努めてまいりました。しかし、少子・高齢化や、若年層を中心とした都市部への人口流失による地域の担い手不足など様々な課題が生じています。このような社会の変化に対応した行政運営を進めるため、平成29年10月に「第２次阿蘇市総合計画」を策定しました。

魅力あふれる阿蘇市を目指して

本計画は、まちづくりの中長期的な指針を示した基本構想、基本構想で取り上げた将来都市像の実現向けた政策を体系的に示した基本計画、基本計画に掲げられる政策を実施していくための具体的な事業や財政計画を示した実施計画から構成されます。

基本構想は、まちづくりの進めた先に目指す将来の姿を定めた「将来都市像」、将来都市像実現のために必要なまちづくりを進めるうえで指針を定めた「基本理念」、地域の現状と基本理念を踏まえたうえで、事業や政策等を進めるにあたっての個別的な目標である「基本目標」から構成されます。

●基本構想の体系図



●将来都市像

「人がつながり創りだす新しい阿蘇～ＯＮＬＹ　ＯＮＥの世界へ～」

人は、お互いがつながりを持つことで、強大なパワーが生まれます。そして、そのパワーを源に、あらゆる分野に挑戦し続けることによって“世界のＯＮＬＹ　ＯＮＥ”となるよう魅力あふれる新しい阿蘇市を創造・発信するという思いが込められています。

阿蘇市は、多様化・複雑化するニーズに応えるため、市民・事業者・行政等の協働により、情熱と大いなるチャレンジ精神をもった未来志向型の施策を展開し、誰もが住んで良かった・働いて良かった・訪れて良かったと実感できるまちづくりを進めていきます。

●基本理念

「大きな明日へ実行するまちづくり」

人口減少社会の到来をはじめ、社会経済情勢が大きく変動している中で、市民と行政の協働による計画的な行政運営を進め、将来にわたって着実に実行・挑戦（チャレンジ）していく阿蘇市を目指します。

●基本目標

将来都市像実現のため、度重なる災害被害からの早急な復旧・復興の取組を掲げた「重点テーマ」と各方面において挑戦する政策推進の目標を掲げた「５つのチャレンジ」を定めました。

行政

愛する郷土を守り、更なる飛躍と発展を遂げる。

阿蘇市の行政機構は６部局 21 課に分かれています。刻々と社会情勢も変化し、様々な状況の中、臨機応変で迅速な対応が求められます。本市も効率的な行政運営を行うため、「部局制」を導入し、課の連携を強化することで、市民のニーズによりよく応えるサービスを展開できるよう努めています。

また、現代の複雑かつ多岐にわたる行政ニーズの中で、望ましいまちづくりを進めていくためには、活気に満ち自立した市民の積極的な参加と協力が欠かせません。市民一人ひとりがあらゆる場でまちづくり の主役として、生き生きと活動できるよう、今後も市政への参画の機会を拡充していきます。

愛する郷土を守り、更なる飛躍と発展を遂げるための第一歩、それは、やはり行財政改革です。より効率的な行政運営を行うためにも、今後もさらに行政のムダを省き、限られた財源をより有効に活用すべく、改革を推進します。行財政改革の断行こそが、阿蘇市が将来に羽ばたくための基礎づくりとなります。

市長　佐藤 義興

副市長　和田 一彦

教育長　阿南 誠一郎

阿蘇市広報誌「あそ」

毎月１日発行。行政のお知らせやまちの話題、市民の活動など、幅広く地域に密着した情報を掲載しています。各世帯に配布しており、市内の施設などからも入手できます。

議会

主役はいつも市民。町の未来をともに築き、開かれた議会を目指す。

議会は、市民から直接選挙により選ばれた市議会議員によって構成され、市民の代表機関として、市の予算や重要な事柄を審議、決定します。日常生活にかかわる様々な事項について、執行機関と真剣に議論を行い、市民の声を行政に反映させる場です。また、議会には、議案などを専門的に審議するために、部門別に審査 する総務、文教厚生、経済建設の３つの常任委員会を設けています。市民一人ひとりの声を、様々な施策の中に生かすために、市議会では市民のニーズを十分に把握しながら、市民の皆さんとともに地域の活力ある発展をめざし、その実現に向けて積極的に取り組んでいます。

議　長　湯淺　正司

副議長　河﨑　德雄

阿蘇市議会議員団　国道５７号（立野地区）被災現場視察

議会だより

年間４回発行。定例議会の議案内容、一般質問のやり取りなどを掲載し、議会の傍聴ができなかった市民のための刊行物として、各世帯に配布しています。